女四書

文孝經上

特別
ロ9
3454
1

門口
文3454
志 2/1

島田藏書

女四書の序

おとこもとものゝ学ぶ文とふことゝせもすべき
まゝなれど我邦乃ものゝひとりて女ゝ学ぶ人せ
ぬことゝなりてこれをそろてゝ女ゝ
文とまなびこの国とそつく出る物語作り
ものゝいふ物とのこゝろをわそび作りぬべし物語家
まれごひい大ゝ憑乱ゆゝのまゝ世ゝとわゝハ
しそろ物語れこゝろにまゝごひてゝつゝく
ゝりものづゝくゝとゝろ〻ゝ〻ゝとゝ
ごゝとゝるべけゝばゝれゝのゝごひハ

ようとしてあそぶんこうにわかんぴんして学文
といふいぶとるるるまわかんぴんみ〳〵の聖居
賢女のうでしことこうひとのんぐきりてわが
ようとうとうの善悪とわるまんぴんとそうきし
身をたしなびさためしてあれまし
じきこうにわかんぴんそれどころまよ代の
賢女むかくハ文学よりまを身をもさ学ひた
貞節ハ代きでに聞てれの
叫為賢女のみとるひとうきるうとよ
凡さとうきりんまわんぴんりうれたびら

親乃女はおのりの物もぴりまとうとまる
びりてで文字よりうとれんぴにりふきまて
ちりをぴうきるべりんぴりてやうもん
もかいるうきるまざなる世書とやまりて
ことでにやいしぎおて海ぐわりん女のて
しきうりとまるひ男とれうむべさだり
とまるあり

女孝經卷上目録

開宗明義章一　はじめにこの女孝経のあらましの義理をあらわしたり
后妃章第二　さきのきさきたちのことをあらわしたり
夫人章第三　さきのきさきたちよりくだりたる夫人のことをあらわしたり
邦君章第四　はじめに国のうしたるものをあらわしたり
庶人章第五　さきのよりくだりたる人のつまのことをあらわしたり

事舅姑章六　孝にあらざるものをつくるなり
三才章第七　孝にあらざるものは天地と人と一体の存在をそこなのとくへとなり
孝治章第八　孝にあらざるものは女の者のみならずそのあるじをおそれしむるなり
賢明章第九　孝にあらざるものは女者をくわるくるに人をもってとのべたり

女孝經卷上目録終

紀德行章第十　孝にあらざるものは女のつとめをそこなひ徳のなきものとのべたり
五刑章第十一　孝にあらざるものは人のつとめをすてて世をわるくするひとをいましめたり
廣要道章十二　孝にあらざるものは女のうんうんるるみちをひろめんなり
廣守信章十三　孝にあらざるものは女もてのうちをあらためうつくしまずとひろめたり
廣揚名章十四　孝にあらざるものはそくわれいをもれとうとくとのべたり

諫諍章第十五
胎教章第十六
母儀章第十七
舉惡章第十八

女孝經卷下目録終

唐選女孝経序

山書ハ唐の朝散郎陳邇と云人の書。鄭氏
のつくれる也。ひさしう世にもてはやされ
ことにもてなされたり。人わかつ時ハこうぢ
わげをすかつらさしまをとえてひゝ
まをあらはせられし也
文天ハ陽にて地ハ陰にて陽ハ
たうとしやうるハつねにまさる。天地自
然の分限なれハ少女ハ天地陰陽にたと
へられぬ。ことにまさるべきわけ

[illegible]

仁義礼智信の五常ハ人のおこなふべき
ことなれども。ことに孝ハ人倫の
ことなれども。孝の中に五常ハ
の徳ハ具してこれを
をうごかさぬ。天地と共に
ちゝ。それ孝ハ人の
これをなぞらへ
こゝ。それと孝ハ
にそ。ひとり

母の様実と。我一人してちんとふゆをあにによめを化
人によめりこせてくとこんたやしやをあつるふ一家化の美を
ちゝんと。まゝを通りそれたゝのひとをわゞ母ともろくく
あにによめしておうとあとあちをりとりひうは。國乃云爲
乃家云ふうてくそれゞ。家云ばゞ右ろいゞりそて
むとめいわゞ母ところをまゞ。わにあのころをちよ。実
西からんをてとでにあ寵よさいまりくるわよさやをめ力
とよゞんひとけもをへさやうをりそれゞ天ようあをて
あこうの一こうにまとしのんをを西ゞくるわやにいよ
をれりこんるを。雷電嚴敬してゆこあり家の家の

うてるへ嚴く。家ちとそこうひなり。えうこの水土地へ
ちこさわゞの様ちこやこれ春秋の德天地とうゞこうを
しにわゞゞやえ大嚴とゝをちこ。聖人へゞゞめいや
き嚴人乃男にくゆしくこ性大春秋の德まち
くけこにちこゞ。竟まゆ乃右をようゞを活ひひひこ
とを活ひ。天神とゆゞり活ひ天神地祇を嚴の為と
あこうめ活ひよ大嚴春秋のまことをくしてあこう
活ひゆ人を神明をしゞくを郊廟の庭よあ四とゞの活
ゆ一とあり。これ春秋の德嚴神と爲ゞ一ひこるよ
わしやゞへ乃のゆこうひこをくなりとりせゞを

孟宦父子夫妻兄弟朋友の五ふをそなへ中みも夫
妻の五ぶ人倫乃ちで先王の教ゆれば第一ゆるもの孝とそ
まつりくぶこうひ行なべ。こを去ていな夫妻ありてこ
そ父子兄弟をわり。孟宦服爰しわまぶ夫妻乃ちたた
しでしぶ人間のうもとたらて。五倫ちに絶滅をかるが
ゆへ。中庸ちて孟子の五ハ端を夫妻よりたこひ円
易乃ちでめふ。乾坤乃二卦とおもこ始ひも乾坤
卦ハ天乃ちふして夫ちあるべ坤の卦ハ地乃ちた
ちて世ちおぞへ乃ち程ありも結乃第一ち関雎の
篇をそれちしぶ人間ちまりしぶ人ちの

をれ孟子ちおりをおひてぶ人の位徳もしく
けるなり。天下やちく行きまり。万民しぶ人を行きまり
行ちものべちの世ちいるいぶするのちち夫妻の五ぶ人の
ひりんぶ三ちの五ぶ人ぶの生れちん人ぶの
書ちぬくとちるひまりぶ人ぶの五ぶをちるべさるのべどや
ちて世ちを世ちを世ちられちれ鄭氏の姪玄宗皇帝乃
ゆ永王璘乃ち石ちをちるべ人ぶ鄭氏ちをちる
し姪ちるのよ河ちわ樣平の母くちうちをのこそ
ぶちちひくを結礼乃ちでちをちべ人ぶ一乃
列世ちのをちるひをちべ人ぶ

用をくわへられまゐらせたりけるこの女房
御十八歳とはいへども姫よりそなたよりも
ものをしれり。下臣人の妻たるものは
くれぐれもあとをくきしまにわれ生べきこと
あらんかぎりはいきてくとまうすべし。書は鄭
氏一人のみちおうもあらじ。書大家といふ賢
女のをしへをしたがひてぐこまりつ。たりどく
とぞしるしとなりえいはんくよそうとまん

女孝経巻之上

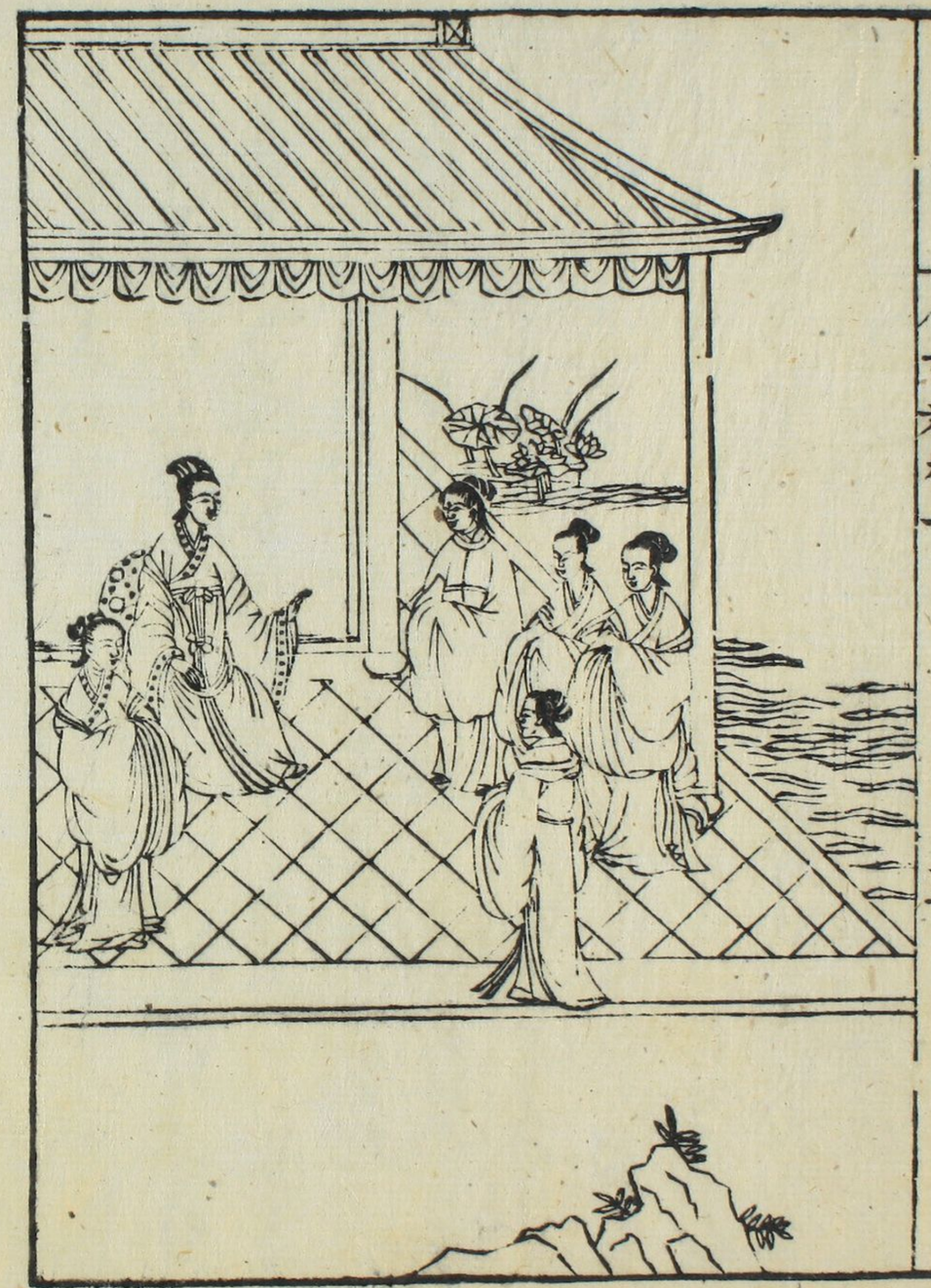
岡宗明義章第一

あるとき書大家法師にたいしけるはそもくのもろ
こしの女房をうしなひまつりぬ。書大家さしまゐう
をまうけ給ひしかハ書をもとりしたがひ給ひ
女英ふたりをもうけ給ひしかハ姉を娥皇と
いひ妹を女英とまうす二人ともに姫とまうす
たゞ聖人の道をまなび給ひ二人のいもう
とめとなり給ふ。世ををさめ給ひ人ををしへ
給ふ。ひとりの二人ゆゑ一国ををさめ給ひ

御ぶくとて、ふたりの人のゆひとめふりをあくたづさへ
ゆひとめふりをあらためつぎたし給はんとあるを
きれぐ見まて二人あぐくの舞よめわつせ給ふて。この二
人乃ゆひとめ、文乃命ゆ、まつひくぐの書とゆ給へ
のこまぐやうし義ようくとをたゝり給る
なく書ゆ乃をとゝしてゆ舞とやまひ給ひねづまて
ひるのとつくんをうれゆ乃やまひ給へ、ゆ、ゆくの世屋
をこくくんゆ乃ゆくくりとゆ乃ゆくくりとゆ乃ゆくくりと

ゆゑ、きみにくはへて親をあがめ、
あまねくべしとのたまふ。
とは、ふかくもつとめ、
まことの道をそなへて世のとくをあらためぶるに
きたるべし。すぎたるをばうしなふ。
たゞわるやうにこゝろをもちまどはせうるべし。
又なほまことをもつてかくもてなすべし。
もしてびとを思案をめぐらしてたがひにやうりん
ぐべし。ちんらうをもつてもつてとまるべし。
ばんとうのしべつをたがひにあらそふ。

ゆゑにてんをあがめるべし。
ちくしてそれにたがひぎれたるを智
恵とはんぐおとやに者のりんぐりうくいけあらこ
とわりはんぐさらぬものをひとしてゆるやうふ
もるはこれらる女の德の物語なり。
のづから天理にかなひ人のもの也。尚まもる者ゆゑ
惟者友平兄弟とゆゑ
とゆゑにて兄弟
つゆきものりとゆゑ



后妃章第二

毛詩乃関雎麟趾乃篇父子君臣乃本也
とし聖人の四德まちくて夫婦乃
后妃と花さ咲ひて天下國家乃四德と化して
ゆきわたるもの也詩乃人倫乃
雎乃篇の人倫乃文王聖德をあらわしひ文后妃
妃と聖德まちくてもとに夫婦ありて父子
へ。雎鳩くつがへるがの雌雄ありひ
びくやうにざうのきさたがひまれちがひしたなく
人をとをさうりをごとくに文王乃夫

如のごとくなるゆへに聖人の教をもつて
の篇のはじめに父子きさきを同じくして德
治ひしかるゆへに聖人の教をもつて
して君臣をあらためずんんじやうをひらくなり
そもそも父子の親親とつぶ
あるゆへにけるむしをとうみて仁愛
なるゆへにそのあつまりをいくのごとく生ずるところ
きしたがつて父子きさきをしたがへ仁愛の心德ゆへ
とゆへにいまの孝經を聖人の教
て仁愛の心德をもつてなり世をおさめ

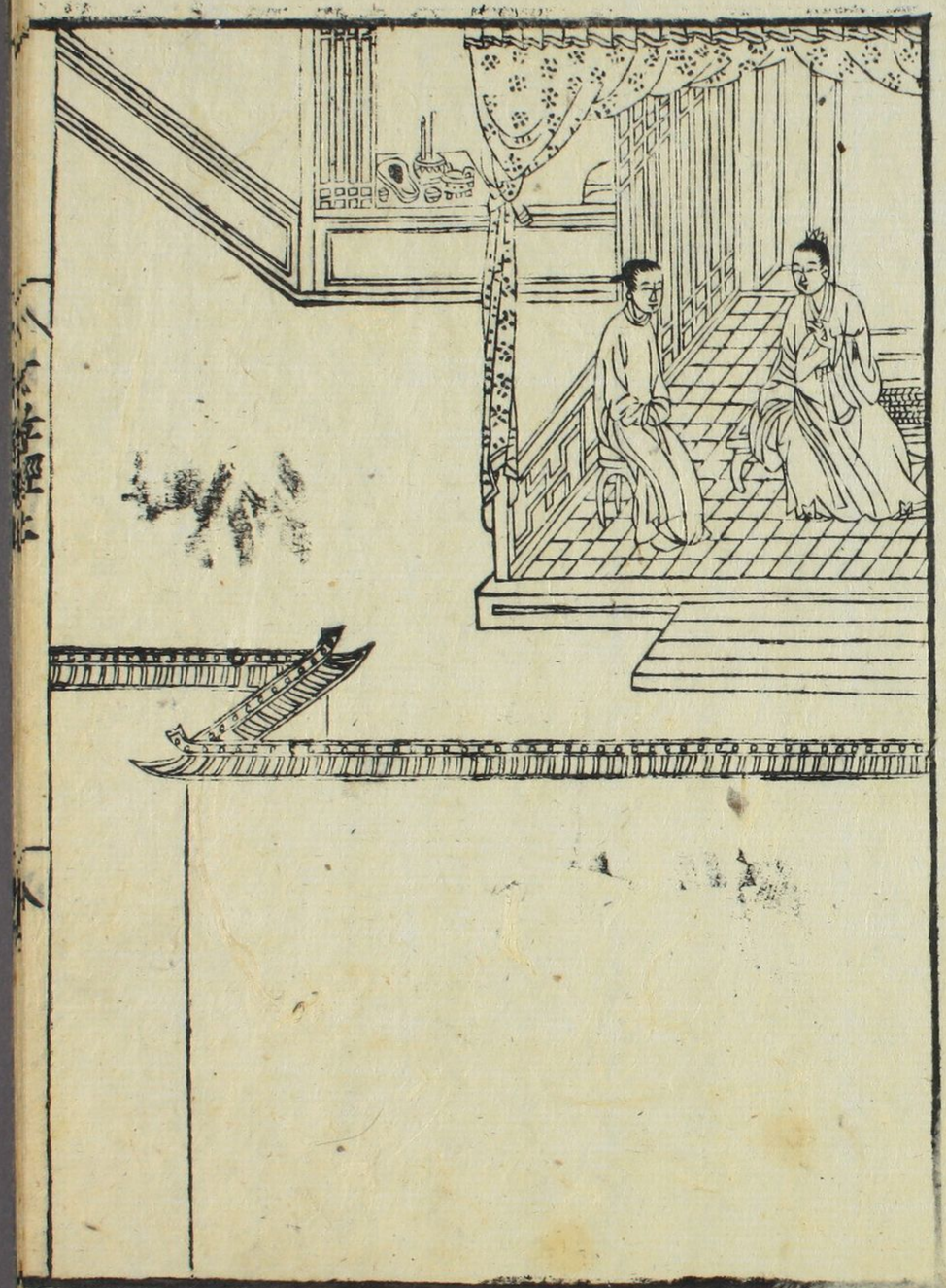
そこで先王はこれをもつて教をなしたまふ
如のごとくなる聖
人のきさきをもつて先王のきさきをもつてまつりごと
をなしたまふ
なるときはひとびとやぶることなく
ごとくなる教をもつてなり
そこで聖人の教をもつて
そもそも君臣の分をけつしてあらそ
あるゆへに天下のまつりごとをおこなつて
わざわひを除くなり天子も君を成德あるこころ
ゆへにくるゆへに海の民をのづから善ゆへにそこで

あるもの世代あり。そもそも白華の篇より。被陰
于宮声闕二于外一といふこと。音楽のうつりかはる
所よりをばそこゝろ知れるなり。君の心平
うして。世数乃治まりくて。文まにうくつゝ治
まるば。天下のこゝろ。そもそもうつりてきたれの
四方のうたうてこゝぐ。はくはくまれどもそんや玉
ちうつくしきものをやとこいひくぐるものそて
と世数一うやまふるるべし

文人章第九

文人とは、天下国家の政をおこなひ、位たかくして、ものいかめしく、
もののあはれをよく知りて、おごりとぼこることなく、倹約のこころ
をまもりて、よわきものをあはれみ、ものをすてて、あらんかぎり
をもてなさんとおもふ。位をあなどりて、ものをかろんじ、
ものをすてて、あらんかぎりをもてなさんとおもふ。おほやけをうらみ、
ものをかろんじ、ものをすてて、あらんかぎりをもてなさんとおもふ。
その世をみだりがはしくし、その身をうしなはんことをおもふ。
此五者は、孝の本なり。礼記にいはく、尚書にいはく、

愛せずして人をにくむべからず。先王の教をもちひずして、
人のぶんざいをこえて、位をうらやむべからず。
さいわひなくして、ものをうらむべからず。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。
ものをうしなはんことをおもふ。



ひづくりなり。そもそも久しみてよそんそんだや
うするまうすこひあり。それうる夫人わこ教乃德
しわいてこれあり。閑易執乃部のしこだん。閑牧
なこち殊德物申仁とゝ人ぶをぢりよりやしこだくお
こすひるに事とだがくるあやうふてしめば。そもそ
わやまうこうて曲うるなしてだしくすあや
なるみとこるにまるそこれをうる人をるらひく
とのづくこでしをあり。まこれんらあまひろ
まうこいるんるるべし

邦君章第四

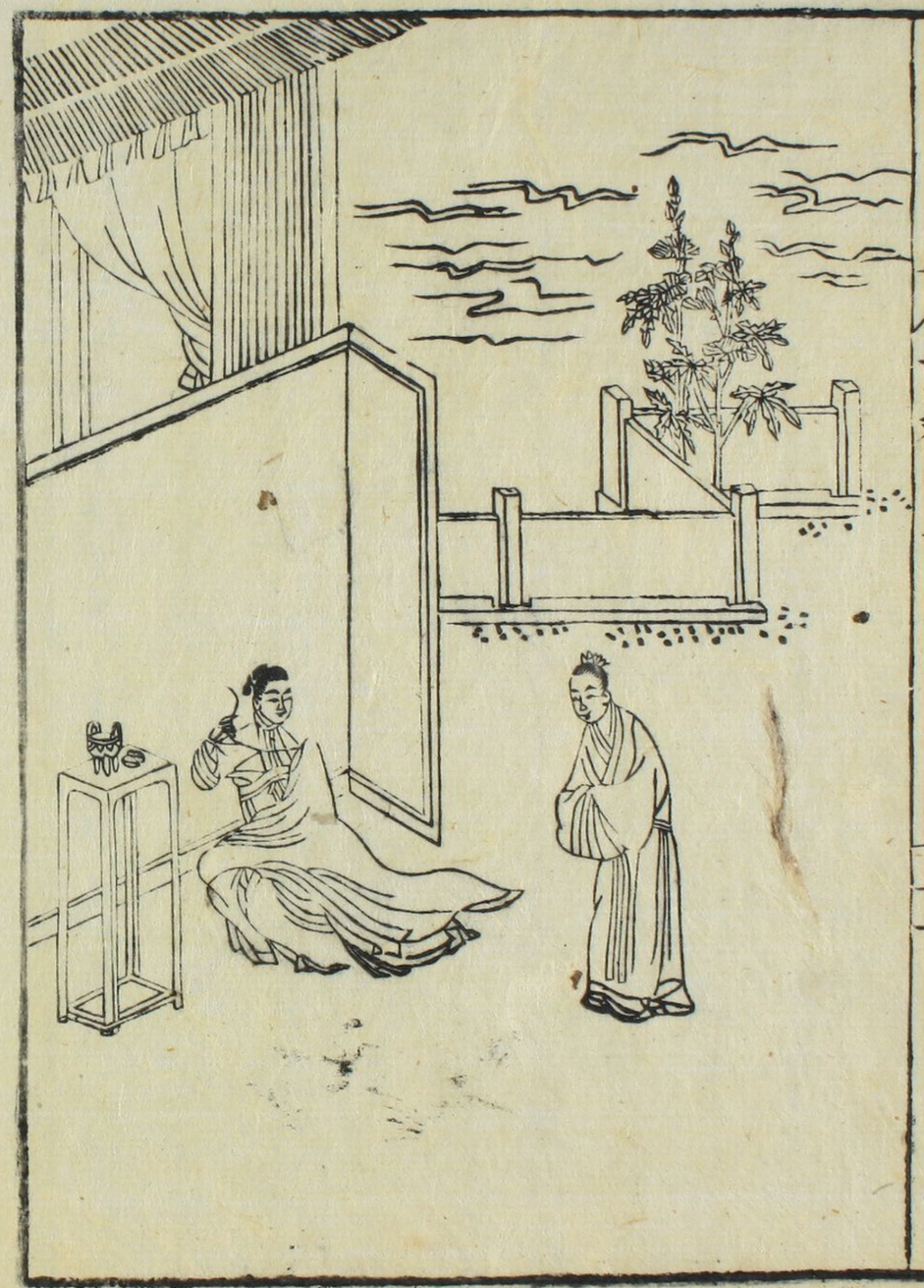
邦君いふ。國乃ちの如乃ちの妻人、周礼といふ書をとりて、
とりたくもろもろ聖人、周礼といふ書をとりて、
ひくぐうべ乃法度とたぐ。夫とさ法ふよ。そのて、
ぬくるを越でてるるを。衣裳よりて、
まぐそれくのうりあるもぐ。しれとくよまぐひて。
ぐてるぬのぶんよわ〜ぐるる衣裳いくるべり〜とぐる
くのことぐもたぐ。しきまのことをひてだるふ
まことぐつまくり〜きまをいてべり〜ぐ。ぐるとて
ふるるやぐんもそのおぬ。わるるのぬれぐ。るぐ

ひふことぐくりとて〜ぐるるすうてわるれぐ。ぐ。のきん
いとぐ〜とをひくぐいとぬぐ。ぐうぬ也やぐぬるすいとて。し
なるまふくるるやとぐ。ぐのきんとぐ〜とをひくぐを
ぬぐうきを也ぐ也とるひいひぐ〜とてあるやとぐのの
てとんいとぐ〜とをひくぐ也とおるぬぐうぬ也ぐひ
乃きぬとたく。なめいぬんいとをとぐ。ぐて
いぬて〜ふすのもきとうくゆ〜よぬくのことぐ。ぐ
神ぬとものぐ〜きいひとあるぐ。擁護〜ぐふもの
ありぐ。ぐれぬ乃るの如乃ものぬ乃ものといふものたる
毛詩乗藝の篇よ。于汲来藝于汲于汲于

聞くに云伝えの事とつたへし。聞の世の初の大名乃は
乃ちと文りまてしきたとの傾うけし。神の織
うやまひ美姫ちうりたむけごとをとり参れ
とのたまひしとそやつたくのんく感じかめて
ぬきとをのれ

處人章第六

處人とは、平人の素性なり。平人の素性なり。なにはのふみ事也。平人の素性なり。されば、わるまねれ、されば、義理をもひ、されば、義理をもひ、されば、義理をもひ



事舅姑章第六

よめの舅姑よつふまつるのみちは父母をあつ
うやまふのこころをたゞしくして禮をもつてし
てはなはだしきまつるべし。わさい舅のうへ姑
くまをとわるくいふとすくさるるきさるあるをあるおろそ
と志くしめのうへゆきさるつあるべしきやうう
しをそなへるべしやうふさをゆるべよハ
ゆ寢なまいりをわしまゆきうてばうう
のうとうけ給りをつけくばくさ
てまつるべしふうちふやまひとをとをあるべと四

ひめ給ふとて。ぎ理をかくし。義
とうりをみ。ぞうりをとりてをわ〳〵ざるやうう
きもつもべ。毛利螺鈿筆。女子ゑ。紙。
ふがに父母とうるもむとめ乃ゑいまいりして。他人の
家へゆくものゐわ。ぞ父母えゑ。といをとゞろ
ゐ。ちうと。ちうとめをわ。とやゐ。ちうとゐ。
めとるんべ。とうるんべ。

三才章第七

三才とは天地と人とのことなり天地の位
程よたがひてうごかしがたきものなり人は
万物の霊なり人ものうまれてかりそめにも
父母を思ひ人倫をわきまへ
しるべきことなり
しるべきことなり
ものをしらざるものは
ふるまひ
ふるまひ
ふるまひ

はなはだとたつとしてぞうれうする世の有りのたぐひなる
天子のさうくわうのうにめんちりぞ地方のまつぐひ利
をうまもづきて親をわらて兄をうやまひ夫をたつと
ひうて妻をるるとあるをたにて孝を礼とあるひぞづ
をもとうくをのへ行をめくぞのつぐにあるひてぞひ
りんをとへるをとがめをぞんあるへのづくをあるひ
歳で孝の意志のをうふをもしあをををおをを先
へをて行をめ行るべををぞうにをあるどやを親身
にをこのを德義をじをれんあるへを行をををこひ
又へをうやまひ為りてぞ礼儀のたあれんあるへ

ひあるひをへをわをふてをるべをを礼楽をををを見
ちひをををゆをぞんあるへ合をあひてやてぶむををを
をりぞ又をしひべをるをばをめにをしををいををそひ
いをを合んをあけをぞんあるへ合をあるひをあるをを
どをれをををへをををけてをを酒をり結
をるべを。毛結為民の為を院政を指以保を為を
ひをるを相乃為理をとをくあををにをてをををづをを
をへをうをあをををの身をやををくあをを先ををて
ををへをゆをを行をををへをるをへ

孝治章第八

孝治ハ人ノ孝ノ行ヒトヲ家ノウチトヲクハ光
ヒトヲ下ルヒトモ德ヨ和ヲヲ
乃ヒトヲ家ノ人ノ孝ノ行ヒヲ
ヒトヲ家ノ人ノ孝ノ行ヒヲ
ヒトヲ家ノ人ノ孝ノ行ヒヲ
ヒトヲ家ノ人ノ孝ノ行ヒヲ
ヒトヲ家ノ人ノ孝ノ行ヒヲ
ヒトヲ家ノ人ノ孝ノ行ヒヲ
ヒトヲ家ノ人ノ孝ノ行ヒヲ
ヒトヲ家ノ人ノ孝ノ行ヒヲ
ヒトヲ家ノ人ノ孝ノ行ヒヲ
ヒトヲ家ノ人ノ孝ノ行ヒヲ

[illegible]

[illegible]

いらるれあるへの哭女乃巻をとりくどくとお
さ免給ひしをへるれば、ぐ〜わん女うけもらひく
ゆりゆるべし毛袖俳楽の篇よ。不徳不忠卒面
照章一とゝるをぢどとうるひよわやうをとるくぢもれ
うるこもるさいるふゆゝうれぐつあ〜わ聖哭
乃きいうをとき給ひうるぞ〜乃ふら成まうるべう
出にぐるあやうふまこぐひるらゆう給へるりせ
ゝるふうるるべし

明章第九

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行くへのしるべとなれかしとねがひ給へるこゝろ
ばせをもかなしくなつかしくおぼえ給へるなり
ねがひをかなへ給へるこゝろ

てもうるがりん女をもてあつかましてあるこうはうがと
ゝ　あるんをもてなすはやをのたふわるべきもしくとをとく
はなはやけとをはしかをわるべれば我たのふわりんこと
とうもくもりかるべくもうるよりわげこうづくとかうめる
御也御りこの農五ようハ名乃掌わこうるもまづも
ありこをわいこうりもてむるところの人いみるわる一門
親まりてづのこみるくの國ありまりづことたをけ
如迚の悪人ともをりづくあをき吳人ともをめこも
しこと中ばづくあるの農五ようとをの吳人とのの
孫中り。勅後先ばば結ぬこをりとやわげれば

荘園のとうのまりこに農五ようこつを移へ農五ようの
ゝく樊姫ごとごと盛じ。我わやまり勅後をりとこ
ひそれかわわるとたちのをそ。海ひてあくあれうる
にもをそ。勇乃わやまりとせあいりをして吳人とうど
孫りをそ先ぞふ出りをんとづりりけるふりをその
ちう孫叔敖とゝ。吳人ひうをしてうれうとこ
ひごこ。をふをめ掌相乃をあをそれ孫叔敖
りをうわをそれう吳人今れで國のまりづことをを
をあふよ出しくをたづしをたふるひ聖乃をに
やもくはをまわ。濃國の結候聖乃國をはをれう

そんとそのふるまひをつつしみ霸王と
なり威ゐをふるひやうやく行ひをこなひ
ぶ一云の智恵をあらはす。天子いとめをもしゆうよわくぶ
もなし。諸侯人ごとに昌盛人ごとにうるはしく。
天子はきたにうる。異人をとうるつるをもつてこれをもつぶ
とゝろんなりつゝ輔弼矣人をもつて治矣とゝろも
あとゞをやらうにてぶつきことをいひ出ぬ也い
きゝ人そのことをとうくゆゝとゆきひろ
ぶ程なりとゝろんるなり

島田藏書